

◆ **ISR2001**

川井昌之

福井大学

2001年4月19日から21日にかけての3日間、韓国のソウルにおいてThe 32nd International Symposium on Roboticsが開催された。本シンポジウムはIFR (International Federation of Robotics) が共催し、もともと ISIR (International Symposium on Industrial Robotics) として産業用ロボットや生産システムなどを中心としたシンポジウムとして1970年から開催されてきたものであり、今年で32回目を数えることとなった。ただ、現在ではシンポジウムの名称からIndustrialが抜け、ISR (International Symposium on Robotics) として、産業用ロボットに関わらない多岐にわたるロボット全般のシンポジウムとなってきている。この名称変更のためか、はたまた最近ロボット関連の国際学会が韓国で多数開かれ (IROS1999, ISR2001, ICRA2001)、韓国におけるロボット研究への関心が高かったためか、前回と比べて今回のシンポジウムの参加者、発表件数が大幅に増加していた。セッションはポスターセッションと58のテクニカルセッションからなり、ポスターセッションの時間は1時間半で55件、テクニカルセッションでは合計380件の発表がなされた。このうち、韓国研究機関の割合は発表件数の約半分、参加者で約4割を占め、Banquetではなんと韓国総理大臣を招待しスピーチを行ってもらうなど本大会をぜひ成功させようという開催者の意欲が伝わってくるものであった。

本シンポジウムは産業用ロボットを扱うことから始まった経緯から生産システム、産業用ロボットなどロボットのアプリケーションの発表が多い中で、バーチャルリアリティ関連の「Haptic Interface I、II」(13件)「Human Interface」(6件)などのセッションも企画され、VRに関連する発表も増加している。特に、ロボットの遠隔操作で操作者側にVR環境を構築する研究や産業用ロボットの動作ティーチングを行う際にハプティックデバイスを利用して安全にティーチングを行う研究などVRの応用研究が多くなってきている。このように最近のロボット研究の中でも、バーチャルリアリティ関連技術の重要性が増してきていることが実感できるものであった。詳細の内容については (<http://isr2001.kist.re.kr/>) を参照されたい。なお、今回のISRでは、IMS (1st Intelligent

Microsystem Symposium) も併催されていたので、IMSの詳細の内容もこのページから見ることができる。

◆ **Advanced Image Seminar 2001**

ブギラ ラルーシ

東京工業大学

(Newsletter Vol. 6, No. 5 より転載)

画像電子学会主催のAdvanced Image Seminar 2001が4月20日(金)に工学院大学において行なわれた。本セミナーは画像電子学会が毎年この時期に開いているもので、今年のテーマは「臨場感を高める最近の映像技術」であった。講演題目は次の通りである。

最近の3D-CGの進展・中嶋正之(東京工業大学)

仮想環境におけるインタラクション

・佐藤誠(東京工業大学)

デジタルアーカイブと高臨場感ディスプレイ

・西岡貞一(凸版印刷)

HMDの最近の動向と展望

・研野孝吉(オリンパス光学)

インテグラル立体テレビ・岡野文男(NHK)

新たな奥行き知覚現象に基づく三次元表示方式

・陶山史朗(NTT)

高臨場感映像伝送システム

・田中健二(通信総合研究所)

臨場感を高める最近の映像技術を中心としてそれぞれの分野から紹介があった。

映像表現技術および高臨場感ディスプレイに関する最先端の技術動向を把握することができた。

個人的に興味をもったのは、中嶋先生の紹介された米国におけるマルチプロジェクションの研究紹介である。Purdue大学、Princeton大学、Stanford大学、North Carolina大学などでmxnのプロジェクタとPCクラスターを用いて超高解像度の映像空間を造り出そうという試みであり、今後のVR技術の一つとして大変興味深かった。